

く子どもたちの生き生きとした笑顔のために

力をあわせ、学童保育をより良いものにしていきましょう>

福岡県学童保育連絡協議会 会長 吉岡美保

新年あけましておめでとうございます

「with コロナ」に変わり国の経済は動いていますが、学童保育の現場は「子どもたちが感染しないように！保護者の就労を支える！」という使命の元、支援員たちは緊張感をもって感染対策を続け、子どもたちの居場所となる放課後の生活を放課後児童クラブ運営指針（以下、運営指針）に基づき子どもたちへの育成支援、保護者の就労支援を行っています。そして、学童保育は保育を必要とする子どもたちの日々の生活と経済社会機能を支えるための重要な事業としてなくてはならないものであることが明らかになりました。

が、今なお、学童保育の実態は自治体の実施条件や学童保育現場の保育内容はさまざまであり、多くの課題（学童保育の大規模化、待機児童、条件整備の遅れ、指導員の低賃金を含む厳しい労働環境、行政や地域の理解の不十分さ、予算の少なさ、営利を目的として民間企業の参入の増加など）があります。併せて、子どもを取り巻く社会状況の中での事件や事故、コロナ禍によるストレスや子どもの人権問題も起こっています。これでは子どもたちの最善の利益は守れず学童保育の質の低下が懸念されると共に、子育て支援全般を担っている実施主体である市町村の責任が問われる事態と学童保育の制度が様々な脆弱さと課題を抱えていることが改めて見えてきました。

設備運営基準は参酌化されましたが、「放課後児童クラブ運営指針」を足がかりにして、国と地方自治体の責任で学童保育が量的にも質的にも拡充されるよう求めていくことと、困難な状況の改善・解決に向けた働きかけを進めていくことは私たちにとって重要な課題です。

福岡県連協は、1977年に『子どもたちに豊かな放課後生活を、そして働く親が安心して働くことができる学童保育を』との願いから発足し、以来活動を続けています。全国学童保育連絡協議会(全国連)や九州各県連協、学童保育に関わる関係機関、そして保護者・支援員の皆様と協力しあい、各種研修会開催や、県市町村との懇談を行い要望を伝え学童保育施策の拡充と量と質の向上に向けて活動してきました。

このコロナ禍、“学びの場”をオンライン研修に変え保護者・支援員・運営者・関係者が学び合う機会を作り、出前研修、クラブに赴きアドバイザーとしても活動しました。

そして各地域ブロック活動を強化し交流しあい、新規加盟へのアプローチをかける働きかけを行いました。

今年もコロナ感染拡大防止対策を図りながら、皆様と手を取り合い協力しあい、子どもたちの生き生きとした笑顔の為に活動し、学び合い、県連協の活動を活発に行いたいと思います。

2月26日は第40回福岡県学童保育研究集会をで開催します(HP掲載)。たくさんの方々と交流しあい学び会えることを願います。ご参加お待ちしております。

皆様の今後のご活躍を願い、年頭の挨拶とさせていただきます。